



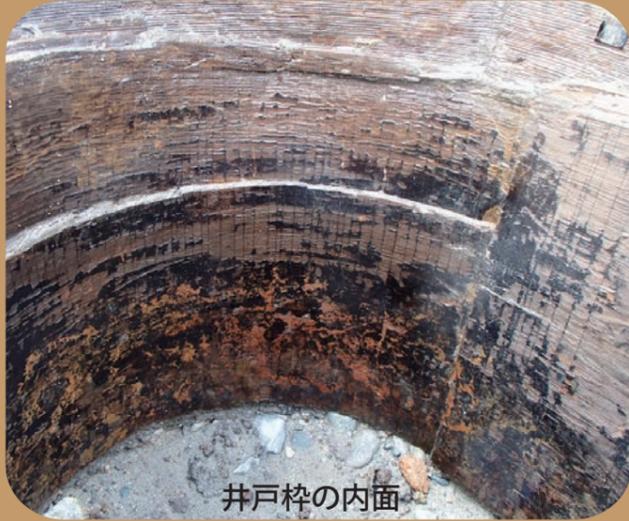
トピック① 曲物を使った井戸

今年度調査区の南西隅で、井戸が1基見つかりました。直径約1mの穴の中心に、直径40cmの曲物が井戸枠として据えられていました。曲物とは、ヒノキやスギなどの薄い木の板を曲げて作った筒形の容器のことです。

この井戸では底を抜いた桶が使われたものと考えられ、2段に重ねて積み上げられていました。下の段は高さ31cm、上の段は10cmが残り、それより上は後世の掘削によって失われていました。

井戸枠の外側は大きな石を使って裏込めがされ、井戸枠の内側は握りこぶし大の石が敷き詰められていました。

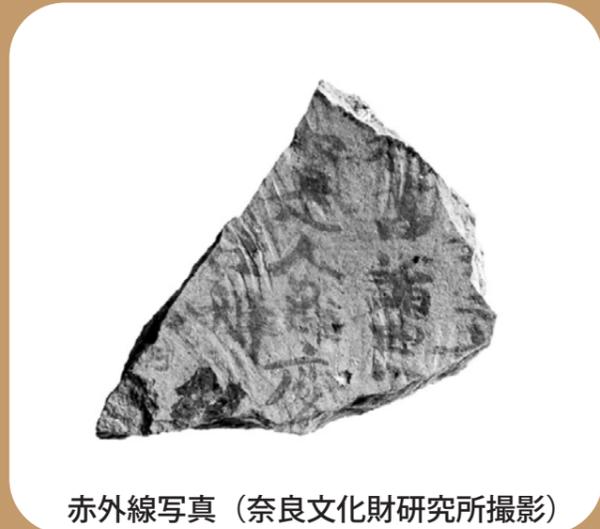
井戸枠の内面には、縦方向に無数の細かい筋が刻まれています。これは板を曲げやすくするための工夫です。板の両端を重ね合わせた部分は、サクラの樹皮でとじ合わせてあります。黒く見えるのは黒漆で、防腐剤の効果があったものと考えられます。



井戸枠の内面

トピック② お経が書かれた土器

調査区北側の田んぼの土の中から、墨でたくさんの漢字が書かれた、須恵器の甕の破片が出土しました。書かれていた漢字は「法華經」という経典（お経）の一部です。平安時代の後半から、仏の教えが衰えて世の中が乱れるという「末法思想」が流行し、後世に経典を残すために、紙や粘土板、銅板、川原石など、さまざまなものに写経して経塚に埋納されました。このように土器片に書かれたお経は、大変珍しいものです。



赤外線写真（奈良文化財研究所撮影）

現地説明会資料

平成27年9月6日（日）

しもさかもとせいご 下坂本清合遺跡の発掘調査



国土地理院 1/25000 地形図「浜村」より

本日は、御来場いただき、誠にありがとうございます。

公益財団法人鳥取県教育文化財団では、一般国道9号（鳥取西道路）の建設に先立ち、一昨年の5月から鳥取市気高町 下坂本に所在する下坂本清合遺跡の発掘調査を行っており、3年目の今年が調査の最終年度になります。これまでに23,617㎡の調査を行っています。

昨年までの調査成果

昨年までの調査では、平安時代の終わりごろから鎌倉時代前半ごろ（約900～800年前）の掘立柱建物や、井戸、河川、水田、畠などが発見されており、東西に流れる河川の北側に広がる村落の様子が明らかになりました。

今年の調査成果

今年の調査区（1-2区）では、河川の南岸側の村落の様子が明らかになりました。調査区の北側では河川の続きと、その岸辺に広がる湿地帯を利用した田んぼが見つかりました。河川の中からは漆器椀と祭祀具である舟形が出土しました。田んぼの土の中からは、お経が書かれた土器片が出土しました。

調査区の南西側は周囲よりも地盤が高く、しっかりしています。この範囲では200基を超える数の柱穴が見つかり、複数の掘立柱建物が立ち並んでいたことがわかりました。建物の近くでは井戸が1基見つかりました。一方で、調査区の南東側の地盤は低く軟弱で、田んぼのあぜや地面を耕した跡が見つっています。



武宮神社

河内川

↓今年度の調査区（1-2区）

下坂本清合遺跡上空から日本海を望む（南から）

公益財団法人鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太12番地（旧鳥取湖陵高校美和分校内）

TEL：0857-51-7553 FAX：0857-51-7550

e-mail:tottori-kyobun@kyoubun.sakuratan.com

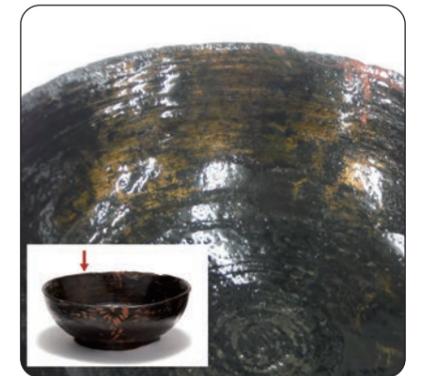
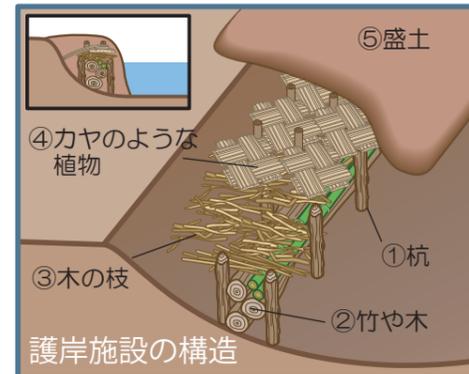
ホームページ：http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosaisitsu%20new.htm



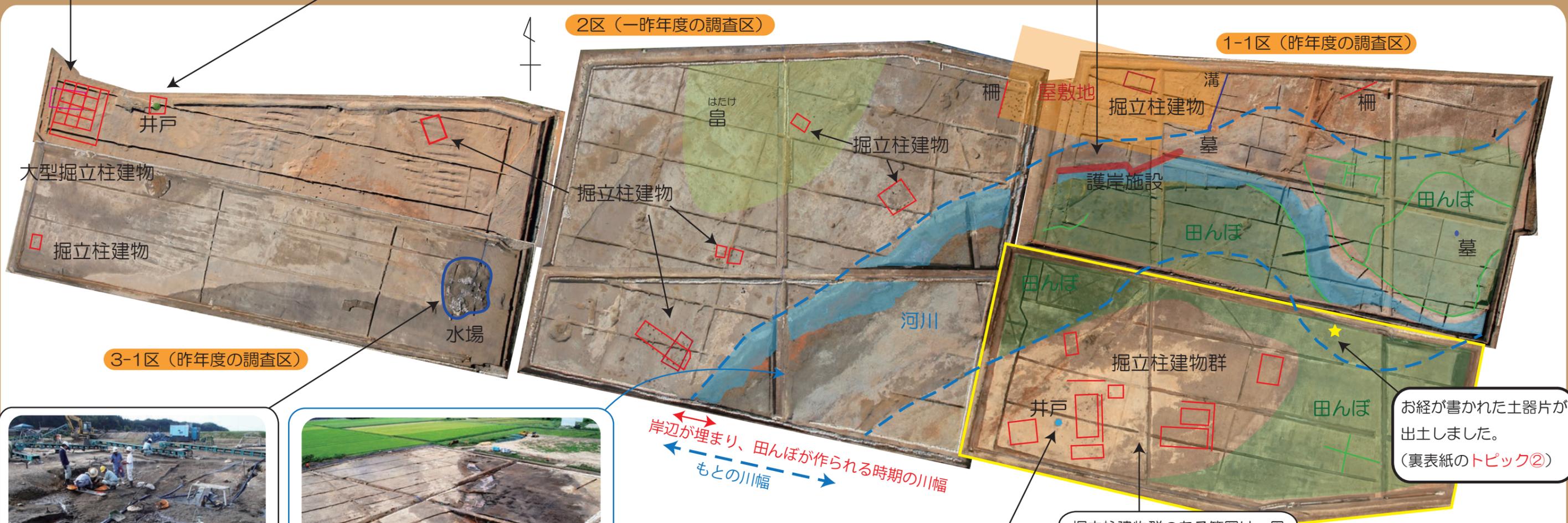
大型掘立柱建物は有力者の屋敷や寺社など、特殊な建物であったと考えられます。



井戸には上屋がかけられていて、底には板で囲った四角い井戸枠が組み立てられていました。



河川の北側には溝と柵で囲われた屋敷地があり、その正面の川岸には護岸施設が築かれていました（写真左）。護岸施設の下には底に穴をあけた土鍋と、金色をした漆器椀（写真右）が埋められていました。これらは地鎮祭祀に使われたものと考えられます。



すり鉢型のくぼ地の底からは大量の水が湧き出していて、ここから20点以上の漆器椀や多量のトチノミが出土しました。



河川からは40点以上の漆器椀や土鍋などの日用品のほか、木製の人形、舟形、卒塔婆などの祭祀具・仏具が出土しました。



まげもの曲物を井戸枠に使った井戸が見つかりました。（裏表紙のトピック①）

お経が書かれた土器片が出土しました。（裏表紙のトピック②）

掘立柱建物群のある範囲は、周りよりも地盤が高くなっています。建物の向きがそろい、柵あるいは塀で囲われています。

村落の中でも地形の高いところは人々が住む場所、低いところは農作物を作る場所というように、土地の使い分けが明確にされていました。河川は田んぼの用水であり、ごみ捨て場であり、祭祀をおこなう場所でしたが、河川の埋没後は村落が姿を消してしまいます。

平安時代終わり頃から鎌倉時代の村落のようす